



3-315VLA-00-01
日本ペイント株式会社
製品使用説明書

クリンカラーU水性
水性2液形ポリウレタン樹脂床用塗料

- ☐ 規格表示
- ☐ 特長
- ☐ 塗料性状

JIS K5970 建物用床塗料 上塗り 相当*

* 該当規格の性能を満たしています。(社内試験)

- ・水性なので取り扱い易く、臭気が少なく、作業性も良好です。
- ・耐候性、光沢保持性が良好で、耐水性、耐アルカリ性、耐薬品性にも優れています。
- ・塗膜硬度が高いので車のタイヤ跡が付き難いです。
- ・ウレタン架橋により強靱な塗膜である為、タイヤ摩耗し難いです。

色		塗料液 (主剤)		硬化剤		
常備色 (枠内記載)、各色 (淡彩～濃彩)				無色		
密度(g/cm³)(23℃)		1.17 ((色相により異なります))				
光沢		つや有り				
引火点		—		94℃		
発火点		—		—		
消防法表示	化学名	—		合成樹脂クリヤー塗料		
	危険物区分	—		指定可燃物・液体		
	危険物等級	— (一)		— (火気厳禁)		
有機溶剤区分		なし		なし		
毒劇物表示		—		—		
有害物表示		—		—		
ホルムアルデヒド登録(認証)番号		N02314				
区分表示		F☆☆☆☆				
放散等級	問合せ先	https://toryo.or.jp				
国連/指針番号		—		—/128		
環境性能	クロル・リホス	配合せず	ホルムアルデヒド	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン	配合せず	パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	配合せず
	スチレン(モノマー)	0.1%未満	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テトラヒドカン	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	ダイイソノン	配合せず	アセトアルデヒド	配合せず
	フェノールカルブ	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		2.3%				
商品ラインナップ		CB1タークグリーン、CB2グリーン*、CB3フレッシュグリーン*、CB4ワイログリーン、CB5ライトブルー、CB6レッドブラウン*、CB7パフ、CB8ヘージュ*、CB9グレー*、CB10ライトグレー*				

・塗料性状に記載の数値は、全て代表的な色相、つやを想定しています。

・*のついた色相は小缶 (3.75kgセット) があります。

- ☐ 塗装基準
- 混合：2液形のため、「塗料液(主剤)：硬化剤=14：1 (重量比)」に混合し、十分にかくはんしてください。
- 荷姿：15kgセット (塗料液(主剤)：硬化剤=14kg：1kg)
- ポットライフ：2時間 (23℃)
- 希釈剤：水道水
- 塗装方法：

塗装方法	はけ、ウールローラー塗り
希釈率	3～7%
使用量	0.13～0.17kg/m ² /回

・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。

・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

・防滑仕上については防滑仕上塗装仕様書をご参照ください。

・ポットライフは厳守ください。ポットライフを過ぎた塗料は性能が低下する恐れがあります。液状でも使用しないでください。

・使用後の塗料残は缶に入れたまま密栓しないでください。反応で生ずるガスにより缶内に圧力が溜り、蓋が飛ぶ恐れがあります。

乾燥時間：

	5～10℃	23℃	30℃
指触乾燥	—	—	—
塗り重ね乾燥	4時間以上3日以内	3時間以上48時間以内	2時間以上48時間以内

・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 注 意 事 項

- ・使用量は、塗料のみについての記載です。塗料の中に珪砂やウレタンチップを混合して防滑仕上げる場合に、混合する珪砂ウレタンチップの使用量は含まれていません。
- ・オーバーコートにクリンカラーマークガードは使用しないでください。
- ・塗料液と硬化剤を混合後の塗料については、必ず使い切るようにしてください。
- ・塗料液と硬化剤の反応に伴い、炭酸ガス（CO₂）が発生します。混合後の塗料を密閉容器に保管しますと、炭酸ガスにより、容器内の圧力が高まることから、密閉容器への保管は避けてください。特に高温になる環境（夏場・車内等）では炭酸ガスの発生が促進し、ふたが飛ぶ等のおそれがあることから、絶対に避けてください。
- ・本製品を混合後に、塗料が余り、容器に保管する必要がある場合は、混合から翌日まで、ふたをせず保管してください。
- ・万が一、混合後に密閉容器に保管してしまった場合には、容器内部の圧力が上昇しているおそれがあります。容器のふたを開ける際、ガス圧力により塗料が飛散するおそれがあることから、ウエス等でふたを覆い、あらかじめガス抜きを実施した後、ふたを開けるようにしてください。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・ワックスを使用している床面は付着阻害を起こしますので、ワックス用はく離剤などで除去し水洗いを十分に行い十分に乾燥後、塗装してください。
- ・施工後、車両のタイヤ、ゴム長靴やコード類など可塑剤を含むものを置くと軟化し粘着性が生じますので、置かないでください。
- ・厚く塗り過ぎると乾燥が遅れたり、ひび割れが入ったりしますので、厚付けに注意してください。
- ・旧塗膜が何回も塗り重ねられて積層されている場合、塗膜全体が柔らかくなっている場合があります。この場合、そのまま塗り重ねると塗膜の物性差によって塗膜割れが発生するおそれがありますので、旧塗膜をはく離してから塗装してください。
- ・軽歩行は塗装後、4時間以上経過した後より可能ですが（23℃）、車両の走行は塗装後72時間が経過した後に行ってください。早期の使用は、塗膜がはがれたり、靴跡、タイヤ跡などの不具合が生じます。
- ・アスファルト面への塗装は、割れやにじみが発生するおそれがありますので避けてください。
- ・旧塗膜がエポキシ系、ウレタン系の場合は、ポリシャー・サンダーで表面を目粗ししてください。
- ・強化コンクリート、カラーコンクリート、フェロコン、ち密に仕上がった一般コンクリート・モルタル面へ施工の際は付着性向上のため、研削機を用いて下地表面を物理的に目粗ししてください。または、研磨紙（#40-80）で表面を目粗した上で、専用のプライマー（クリンカラーパワフルプライマー）に強化C添加液を加えたもの、またはクリンカラーWエポ速乾プライマー）をご利用ください。
- ・常時、水が溜まる箇所は傾斜をとり、排水溝を設けるなどして、排水処理を行ってください。
- ・常時水がかかる可能性がある場所、または下から（塗膜の裏面から）水分が廻る可能性がある場所には、ニッペクリンカラーEレジモルクリヤー（新）を使用した塗装仕様で塗装してください。
- ・下地表面の油脂や汚れは溶剤などで十分に除去してください。
- ・下地コンクリート表面のレタンス、エフロレッセンスなどの粉化物、ぜい弱部は十分に除去してください。ひび割れ、巣穴、不陸などがある場合や、旧塗膜にはがれがある場合には、あらかじめエポキシ樹脂パテなどを充填するなど、段差修正や部分補修などを行い、平滑な面にしてから塗装を行ってください。
- ・塗り替え時で、旧塗膜が弾性の場合は使用しないでください。
- ・旧塗膜の種類が不明の場合には必ず試験施工で適性を確認してください。塗り替えの際、旧塗膜の劣化状況や付着状況、または使用環境などによりシーラーレスタイプの塗料でもプライマーが必要な場合があります。
- ・サンダーコンクリート面に塗装する場合は、プライマーを数回（2～3回）塗装し、素材表面の強度を向上させてから上塗りを塗装してください。
- ・塗料の中に珪砂を混合して防滑仕上げる場合は珪砂は沈殿しやすいので、かき混ぜながら塗装してください。
- ・クリンカラー防滑骨材を配合した塗料はすみやかに使いきってください。長時間放置されますと骨材が沈殿もしくは浮いてきます。ご使用の際は、必ず使用量にあわせて調合し、使い切りとしてください。
- ・施工に關する詳細な注意事項はクリンカラー施工マニュアルをご参照ください。
- ・塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。

- ・色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- ・反応硬化タイプの塗料のため、使用後ははけなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラッカーシンナーで洗浄してください。
- ・硬化が不十分な場合は、シンナーで再溶解する場合があります。
- ・硬化剤は湿気で硬化しますので密栓して貯蔵してください。
- ・塗料を扱う場合は、皮膚に付着しないようにご注意ください。また、蒸気やミストなども吸い込まないように十分にご注意ください。
- ・塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合（高湿度、結露、降雨など）、塗膜表面が白化するおそれがあります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装を避けてください。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・改修工事にご使用の場合は、旧塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し溶剤膨れや縮みなどの異常が発生する場合がありますので、旧塗膜の種類をご確認のうえ、塗装仕様をご検討ください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・塗料液と硬化剤の混合割合は、必ずまもってください。混合割合が不適切な場合、塗膜性能が発現されなかったり、仕上がりや作業性が低下することがあります。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗装後に密閉しますと乾燥が遅れますので、換気を十分に行ってください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- ・ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・塗装面以外に付着した場合は、乾燥するまでにラッカーシンナーまたは塗料用シンナーで洗い落としてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

●本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

●本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

●Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved. ※この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。